

地域において実践活動を展開している者。

(5) 内容、時間

① 基本研修………30時間

- 国際婦人年をめぐる婦人の課題と役割に関すること。
- 変化する社会と婦人教育問題に関すること。
- 婦人教育の内容、形態、方法に関すること。
- ボランティア活動の意義と役割、実践に関すること。
- リーダーの資質、技術の向上に関すること。
- 体育、レクリエーションに関すること。

② 専門研修………20時間

- A コース……婦人学級リーダー育成コース
- B コース……婦人団体リーダー育成コース
- C コース……地域ボランティアリーダー育成コース
- D コース……中堅リーダー育成コース
- E コース……国際理解コース

(6) 研修方法

ア 講義

- 国際社会に生きる婦人のボランティア活動
- 国際婦人年をめぐる婦人の役割とユネスコ活動
- ふるさとづくりによせる婦人団体の役割
- 地域におけるリーダーの役割
- 婦人のライフサイクルとボランティア活動
- 婦人の学習組織とボランティア活動
- 子供の健全育成と婦人のボランティア活動
- 親子の断絶とつながり

イ 研究協議（コース別）

- 婦人学級におけるボランティア学習
- 婦人団体におけるボランティア活動の実践
- 地域づくりと婦人のボランティア活動
- 国際理解と婦人のボランティア活動
- リーダーの資質を高めよう。
- 私の考える婦人教育
- 地域におけるボランティア活動展開の現状と問題点

ウ 全体協議

（協議題）

- 国際社会に生きる婦人の視野を広めよう
- 子供の生活環境と地域づくりの視点について

エ 実技研修

室内ゲームとレクリエーションの実際

オ コース別研修

カ レクリエーション、交歓会

キ ホームワーク

(ア) 必須課題（その1）

- 婦人ボランティア活動を進めるために、婦人学級（団体）における学習計画（実践活動）の中にこれをどう盛りこんだらよいか。（どう盛りこみ、ボランティア精神を高めたか。）
- 婦人ボランティア活動に関する学習要求調査を進める。——地域婦人との面接による——

(イ) 自由課題（その2）地域グループ研修テーマ

- いきいきした地域の婦人教育活動を盛り上げるために、地域別にグループをつくり、研究テーマをたて、具体的な調査、研究、実践を進める。

ク 地域別研修（管内ブロックごと）

10 婦人教育調査

(1) 趣旨

ボランティア活動の促進を図るため、さきに実施した「婦人ボランティア活動に関する生活意識調査」並びに「婦人ボランティア活動に関する学習要求調査」の集計結果に基づいて実施した学習活動について、とくに、地域における実践事例を中心として指導資料を作成し、婦人教育の振興を図る。

(2) 調査の主題

「婦人ボランティア活動に関する実践状況の調査」

(3) 調査の対象

県内に在住する20歳～60歳の婦人 1,500名

(4) 調査期間 10月～1月

(5) 調査に当たった者

- 調査指導員……各教育事務所の婦人教育担当者がこれに当たり、管内における調査実施全般について指導、助言する。
- 調査研究委員……県内婦人教育指導者の代表（10名）をもって構成し、調査結果について研究分析し、資料の編集に当たる。
- 調査員………福島県婦人教育指導員（16名）
- 調査協力員……調査対象地区公民館職員並びに県内婦人有志指導者

(6) 調査の方法

- ① 地域類型対象を○農村 ○商店街 ○住宅街 ○都市近郊地域（新興住宅団地を含む）とする。
- ② 調査員並びに協力員等を中心とする面接調査による。
- ③ 調査の手順……調査協力員→調査員→調査研究委員→調査指導員を経て結果を考察する。

(7) 調査内容

「地域におけるボランティア活動に関する実践」状況の調査

学習の発表として地域に根ざした活動を継続している実践事例

——婦人学級、婦人団体、グループ——

(8) 調査結果

- ① 調査研究委員会をもうけ、調査結果を分析して、県内における婦人ボランティア活動促進のための資料とする。
- ② 調査結果を集録して関係者に配布し、婦人教育振興のための資料として活用する。

(9) 備考

調査結果については婦人教育資料「婦人ボランティア活動の実践——活動編——」を参考のこと。

11 県研究婦人学級

(1) 趣旨

婦人教育の学習機会の拡大と、学習内容の充実を期するため、昨年に引きつづいて、婦人教育活動の各分野にわたり、自発的な促進援助をするための中心的な役割を果たす婦人ボランティアの養成のため、ボランティア活動に関す